

3 きこのほだ木と培地

県内にはシイタケ栽培農家が約300軒あり、年間生産量は360tにおよびます。原木に接種する方法のほか、オガコを使う方法もあります。このほかヒラタケ(43t)、ナメコ(47t)が生産されています。

(1) シイタケ用のほだ木をつくる

晩秋から年末に伐採し、そのまま1か月放置し、樹木内の水分を減少させます。後で約1m位に玉切って原木とします。

(2) 原木に菌の接種

森林組合、DIYショップなどで種菌を購入し、専用のドリル刃で穴を開け種駒を植えこみます。

(3) シイタケをつくる

ほだ木は林内に置き、時々天地をひっくり返しながらかきの菌糸の発育を待ちます。一般的には翌春からシイタケが発生します。

(4) ほだ木の再利用

3～5年発生させたほだ木はぼろぼろになります。かぶと虫の養殖に利用されたり、温室などのボイラーの熱源として利用されます。



発生したシイタケ



ほだ木を作る



ほだ木を運ぶ



学校で種菌の接種



業務用に積み上げられたほだ木